



欄に数値またはコメントを記入

## 1. 建物概要

建物名称	仮称)めいわ電洋統合園建築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----	-----

## 2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)	3.2 /5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)	3.1 /5		ふつつ
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)	3.3 /5		ふつつ
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)	2.7 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4点以上 ふつつ 3点以上 がんばろう 3点未満

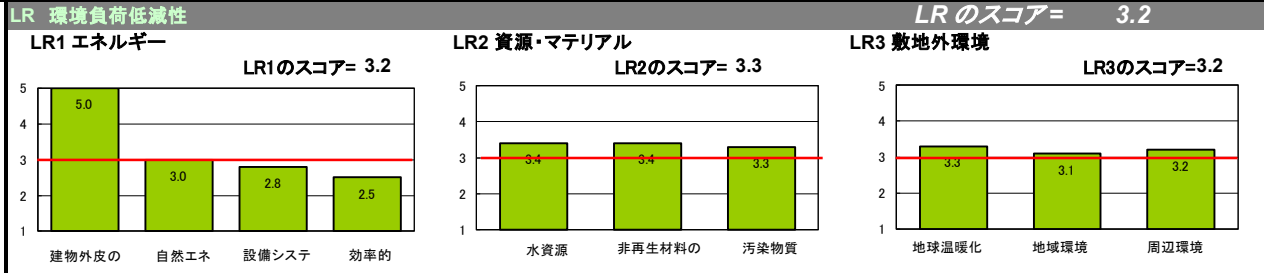
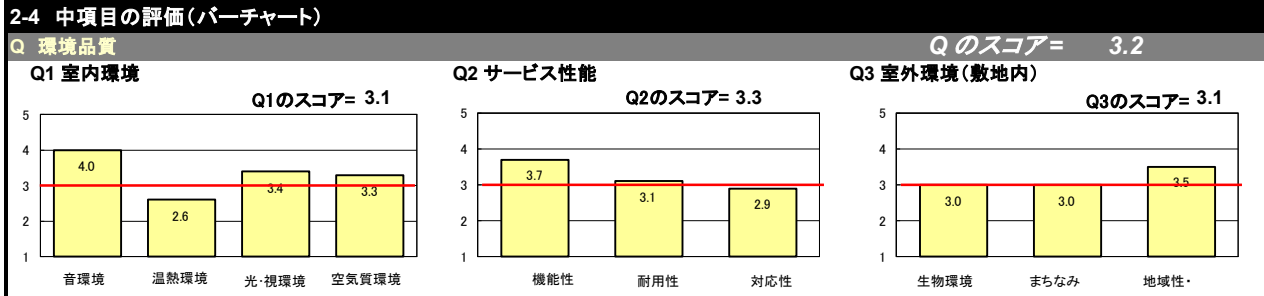
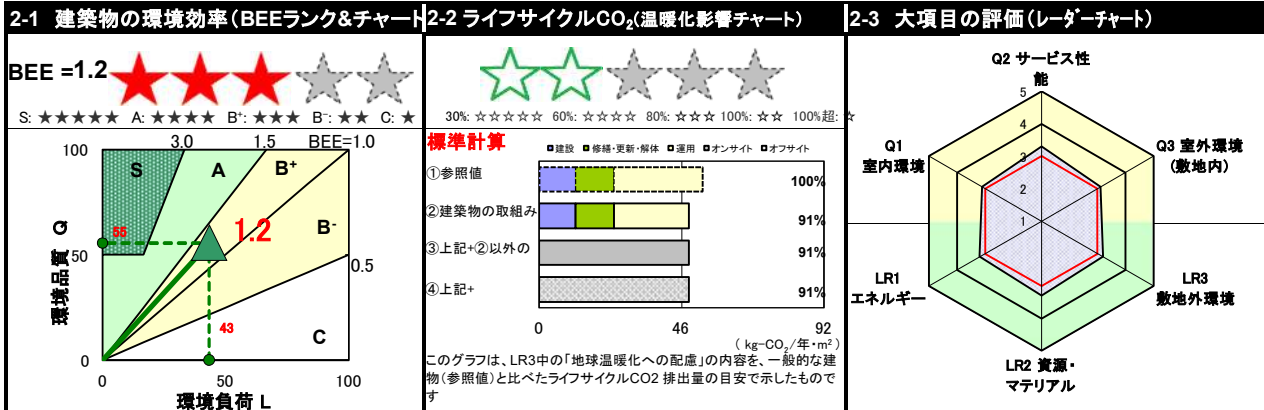
## 3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。	内訳対応項目	
	得点	3.2
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④フローリング25年、ビニルクロス20年、岩綿吸音板30年 ④給水管:塩ビライニング鋼管(B)水道用ポリエチレン管(B)、給湯管:塩ビライニング鋼管(C)、汚水管:塩ビ管(B)、雑排水管:塩ビ管(B)、Eは不採用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPI <sub>m</sub> =0.60 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪自動水栓及び泡沫水栓に加えて、節水型便器の採用 ⑫断熱材・床下断熱材、ビニル床材・床仕上げ材にリサイクル材を採用 ⑬LGS地下採用により躯体と仕上材が容易に分別可能、OAフロア採用 ⑬ノンフロア断熱材を採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率=91%	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	② 外皮性能 ③ 昼光利用設備 ④ 昼光制御 ⑤ 躯体材料の耐用年数 ⑥ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑦ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑧ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑨ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑩ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑪ 生物環境の保全と創出 ⑫ 敷地内温熱環境の向上 ⑬ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑭ 自然エネルギー利用 ⑮ 設備システムの高効率化 ⑯ モニタリング ⑰ 運用管理体制 ⑱ 節水 ⑲ 雨水利用システム導入の有無 ⑲ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑲ 材料使用量の削減 ⑲ 既存建築躯体等の継続使用 ⑲ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑲ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑲ 持続可能な森林から産出された木材 ⑲ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑲ 有害物質を含まない材料の使用 ⑲ 消火剤 ⑲ 断熱材 ⑲ 冷媒 ⑲ 地球温暖化への配慮 ⑲ 温熱環境悪化の改善
<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰光・メタルと通信手段を多様化、通信精密機器を地上階に設置、災害時に使用可能な有線電話を設置	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲2歳児保育室B:壁長さ比率0.1以上0.3未満 ■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑲	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・ゆとり ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b> ■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/㉑敷地内温熱環境の向上) ㉑空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている ■敷地外環境対策 (㉒持続可能な森林から産出された木材/㉓温熱環境悪化の改善)	Q-3 1 ⑲ 2 ⑲ 3 3.2 ⑲ LR-2 2 2.5 ⑲ LR-3 2 2.2 ⑲	㉑ 生物環境の保全と創出 ㉑ まちなみ景観への配慮 ㉑ 敷地内温熱環境の向上 ㉒ 持続可能な森林から産出された木材 ㉓ 温熱環境悪化の改善

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)めいわ竜洋統合園建築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県磐田市	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	250 人
地域区分	7地域	年間使用時間	3,900 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2021年5月18日
敷地面積	4,405 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社竹下一級建築士事務所
建築面積	1,665 m <sup>2</sup>	確認日	2021年5月18日
延床面積	2,046 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社竹下一級建築士事務所



3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b> これはCASBEE静岡2016年版による評価結果です。 北側・西側に住宅が隣接していることから、建物配置により離隔を確保すると共に建物のボリュームを分割し、圧迫感を低減している。</p>		その他
<p><b>Q1 室内環境</b> 昼光率を高めに設定し、また、ブラインドや庇を採用するなど光・視環境に配慮している。 また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど空気質環境にも十分配慮している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> 壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。防汚性に配慮した内装材を使用するなど維持管理に配慮している。通信設備の多様化、補修必要間隔の長い仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。 緑地を設けることにより良好な景観を形成している。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b> LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> 自動水栓などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。また、OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮、管理用車両・荷捌き車両の駐車施設を確保するなど交通負荷の抑制に配慮している。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される